

実践 曹洞宗の慶事法要

序論 慶事法要とは何か

第一部 人生儀礼

安産祈願（着帯式）／初参り／命名式・とり子／七五三参り／十三詣り／入信式・入檀式／授戒会・自覚の集い／成人式／仏前結婚式／結婚奉告式／長寿祝い／厄除け

第二部 年中行事

修正会・初詣（除夜）／三仏会・涅槃会・仏誕会（灌仏会・花祭り）・成道会／高祖降誕会・太祖降誕会／節分会／星祭り・七夕／達磨忌・両祖忌／開山忌／開創記念日／断臂報恩会／放生会

第三部 特別・臨時法要

晋山式／開眼・入魂式（鐘供養）

第四部 教化活動

禅の集い（月例信仰集会）・法座／写経会／写仏会／人形供養／車両祈祷

付録1 慶事法要のための名言・逸話集

付録2 慶事法要のための種子・真言一覧

『安産祈願』より



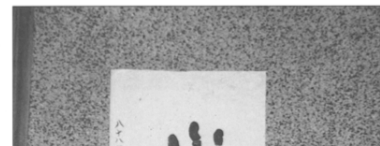
『長寿祝い』より

■長寿祝いのいろいろ
寺院が関わって行なう長寿祝いには、大きく分けて二種類が考えられる。
一つは特定の檀信徒の長寿を祝うものであり、もうひとつは檀信徒の長寿者すべてを対象として祝いを行なうものである。
前者は家族などの依頼により、寺院または本人宅などで法会を執り行なう。後者は寺院が主催となつて、檀信徒を寺院に招いて行なう。前者の場合は還暦や喜寿・米寿といった特定の年齢の者に対して行なうことになるが、後者の場合は「六十歳以上（あるいは七十歳以上）」などなただでも参加していただく」というような形がよいと思う。老人ばかりではなく、その家族や近所の子どもたち、一般の檀信徒もできるだけ参加してもらうと、賑やかなものになる。敬老の日や、沖縄の例のように八月八日に行なつてみるのもよいだろう。
法会の内容は、土地柄や参加者、人数などを勘案して決めるべきだが、伝統的な信仰に基づいた次のような記念品（慶符）を配布するようにすると面白いかもしれない。

「七五三参り」より



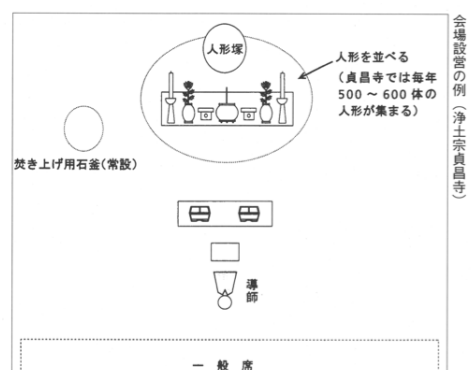
身体健全



手形
米寿の祝いの時に、その者の手形を配するという習俗が関西地方にはある。手形：よみかた「てがた」
「八十八翁」など
五具足
香炉
焚き上げの用意
参加者の焼香用香炉
機・焼香白用
供養の日時を決定する場合、式の性格から、この供養は子供が休みである土曜・日曜・祝日を選びたい。また、参加者を募るにあたっては、檀信徒に案内を出すほか各地方新聞や情報誌のようなマスコミ関係に通知を出すことも有効であろう。

式次第
香燭
三層礼文
感謝のことは
子供の代表による
人形奉納
子供の代表が人形を奉納する
焼香
参加者全員による焼香
読経（般若心経）
回向

「人形供養」より



会場設営の例（浄土宗真如寺）

「仏誕会」より

牌には次のどちらかの偈を書き、ただし、牌は二つ用意し、一方は左書き、もう一方は右書きとする。すなわち、下図のように室内に掛ける。

稽首大聖薄伽梵
天上天下両足尊
我等今以功德水
灌浴如来淨法身

我今灌沐諸如来
淨智莊嚴功德聚
五濁衆生令離垢
同証如来淨法身

